

二十歳のころ

C 班 小澤悠真 佐伯美玲 寺島菜々子

<インタビューをした理由>

今や静岡県民のみならず日本中で愛されている理由を知りたかったから。(静岡県民小澤の意見)

日本全国からハンバーグを目当てに足を運ぶのか知りたかったから。(東京都民佐伯・寺島)
これらの理由がそれぞれある中で、こんなに日本全国から愛されるレストランには何か特別な経営方法があるのだろうかと私たちは考えました。そしてその経営をしているのは「さわやか」の社長である富田社長であり、その人はどのような信念を持って「さわやか」を成長させ、またその人が二十歳のころどんな考えを持っていたのか伺いたくインタビューさせていただきました。

<インタビュー内容>

Q：社長が二十歳のころは？

A：バックパッカーとして世界中を飛び回る。“芸能人やお酒の話しかしない日本人”と“自分の人生設計きちんと立てている世界の国々の大学生”の違いを知り、ある種のカルチャーショックを受ける。また旅をすることにより、自分の世界観も広がった。

Q：人生のターニングポイントは？

A：バックパッカー中にお金がなく、お腹が極限にすいた状態で入ったレストランで社長のお腹も心も満たしてくれた店員のキャサリンとの出会い。レストランとは、人に生きる元気や力を与える、とても素敵な場所だと気が付く。これが後に「さわやか」で働くことになる大きなきっかけともなる。

Q：さわやかとは？

A：静岡県内に 31 店舗を構える炭焼きレストラン。主力商品は“げんこつハンバーグ”であり、安全性が一番高く、ステーキとしても食べることができるというオーストラリア産の牛肉を使用。また、それを活かすために炭を 100%使用している。これだけ見てもわかるように他店では見られない細部まで強いこだわりを持って経営していることがわかる。

Q：社長が仕事をしている上で大切にしていることは？

A：ズバリ、「誇りを持つ」ということ。企業の存続のためには会社として“正しいことをする”ということが大切である。そのためには“本当に安全な食材を使用する”ということが“正しいこと”であり、肝になるのである。

Q：そんな社長の座右の銘は？

A：努力！！努力こそが自分を成長させ、努力した分まで自分に返ってくる。また、昨日より今日、今日より明日の自分を超えていくという向上心が、自分を成長させるのである。

<インタビューを終えて>

まず、私たちは、インタビューを終えて、自分たちのちっぽけさを痛感しました。それは自分たちにはない富田社長の豊富な知識や向上心を通してひしひしと感じたからです。だったらと大学生活を送っている自分たちにとって富田社長のお話は度胆を抜く話の連続でした。さらに、このインタビューは自分たちのこれからの大学生活を変える大きなターニングポイントとなりました。

社長から頂いたお言葉の中に「燃え尽きるまで努力してみよう」という言葉があります。この言葉は、何か一つのことに燃え尽きるまで打ち込んで何かを達成すれば次もまたその次も頑張っていけるという意味です。この言葉をいただいて私たちは、目の前にある一つ一つのものに対して燃え尽きるまで頑張ってみようと決心しました。

最後にこの「二十歳のころ」を通して日々の生活において様々なことに積極的に取り組めるようになり、大学生活が良い方向に進んでいます。このような貴重な時間を与えてくれた富田社長に重ねて感謝いたします。